

令和4年度 園経営計画 足立区立おおやたこども園

園長小俣 春美

1 園の経営目標

- ・幼児期にふさわしい豊かな愛情と多様な体験の中で「かんじるこころ」「かかわるよろこび」「やりぬくつよさ」をもったこどもを育てる。
- ・子どもの最善の利益を第一に考え、保護者や地域に信頼された中で「共育」を進める。
- ・「人権を尊重」の理念に立ち、豊かな愛情と専門性を兼ね備えた質の高い保育を実践する。

2 園の現状

- ・コロナ禍にあっても、子どもの体験から得られる学びを止めないよう創意工夫をしてきた。
- ・子どもたちは、保育者との信頼関係をもとに、自己を自由に表現し好きな遊びを見つけている。
- ・園庭に巧技台やフープを用いたボール投げ等の遊具を設定し、保育者も一緒に遊ぶことを心がけたことで、外遊びの好きな子どもが増え、異年齢での遊びも多くみられるようになった。
- ・年齢や経験の違う職員がいることで、子どもに多様な関わりができています。個々の職員の良さが発揮された保育実践ができるよう「育てあい、学び合える」職場風土の定着が望まれる。
- ・ICTモデル園の取組みにより、子どもの姿をタイムリーに伝えることができ保護者に好評である。

3 今年度の重点的項目

重点的に取り組んでいきたい事項－1	・自分も友達も愛されている大切な存在であることに気付けるようにします
具体的な取組み	
項目	具体的な内容
・正しい人権感覚を持った職員を育成する	・年度当初に、人権計画の読み合わせをする。 ・保育の質ガイドラインを用いて、4か月に1回、全職員が自己チェックをすると共に職員間でも確認し合う。
・子どもが命の大切さを知り、自分や他者が大切にされる存在である事を感じる機会をつくる	・生き物や植物を育て「命」に触れる機会をつくる ・自他の存在を大切にすることについて、絵本等の教材を通して子どもに知らせたり、一緒に考えたりする。
重点的に取り組んでいきたい事項－2	・自分で遊びを選択し、遊びこめる環境を整えることで子どもの主体性を育みます
具体的な取組み	
項目	具体的な内容
・子どもが遊びの中で多様な素材に出会えるようにする	・教材研究を通して、発達や年齢にあった教材を準備する。 ・子どもが自由に手に取ることができる教材棚を用意する。 ・自分なりの素材の使い方を見付ける体験の場を作る。
・一人一人の興味や関心を探り、遊びたくなる環境を設定する	・保育観察や記録から子どもの育ちや内面を理解し、子どもの興味や関心にあった環境について職員全体で考える。 ・最低でも月に1回は保育室の環境を見直し、再構成する。
重点的に取り組んでいきたい事項－3	・多様な視点で子どもを見守り、安心と安全を守ることができるようチーム保育を進めます
具体的な取組み	
項目	具体的な内容
・職員間で全園児の姿を共有する	・毎日の連絡会で子どもの些細な情報やエピソードを伝え合い、他学級の子どもの姿もわかるようにする。 ・月1回は、保育の事例から、子どもの成長にとって最善の方法を見出すことができるよう話し合う。
・個々の職員のおよさや意見が反映される職場風土を構築する	・係ごとやクラスごとに相談し語り合える場をつくる。 ・互いの得意分野を把握し、それを活かして業務遂行する。

園経営計画補足資料

- ※補足資料は、経営計画本体以外に課題や取組みがある場合、記入をしてください。
- ※ホームページに掲載するのは、経営計画本体のみですが、補足資料についても個人情報に記載しないようご注意ください。

項目 1	・運動遊びを通して健康な心身の発達を促します
<ul style="list-style-type: none">・体操等時間を決めて意図的に取り入れたり、巧技台を園庭に設定したりする等、自然に体を動かして遊ぶ環境を運動遊びプロジェクトが中心となり企画する。・遊びの土台となる生活リズムを整えるため、保護者に意義を伝え各家庭とよく話しながら協力してもらい、9時まで登園を100%実施する。・天候に関わらず、どの年齢でも一日1時間以上の運動遊びができるように、環境を整え、活動を工夫する。	

項目 2	・保育内容をわかりやすく外部に発信し、地域・保護者と共に子どもを育てることができるようにします
<ul style="list-style-type: none">・子ども支援システムを活用し、タイムリーに子どもの活動の様子を配信する。・ホームページと子ども支援システムの用途を明確にし、各々の良さを活かして園の保育を広報できるようにする。・誰に向けて発信するのかを明確にし、職員間で共有する。また、使用する言葉や内容、写真等吟味し職員間で確認できる体制をつくる。・新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、園内行事や活動に地域の方やPTAの力をお借りし子どもに多様な体験の場を設ける。	

項目 3	・保育者の専門性の向上を図ります
<ul style="list-style-type: none">・保育の質ガイドライン、足立っ子すくすくガイドを用いて、子どもの発達の理解を深め、保育上の配慮を学ぶ。(年度当初4月から6月)・愛着形成の確立に伴う保育実践を年度当初に共有する。・園運営の中で、大切にしたい子どもへの関わりを具体的な生活の場面から理解できるよう常に職員間で語り合う。・保育の中で日常的に使用している言葉(生活習慣の自立、水分補給、昼寝の見守り、薄着等)を掘り下げて考え言語化し、職員間で共有する。・保育実践の中で、経験のある保育者が経験の浅い保育者に具体的な関わりを指導する。また、事例から互いに語り合う場を定期的につくる。・園内研究や研修を通して理論と実践を学ぶ。(年間3回以上)	

*補足資料の欄は、大きさを変えていただいてもかまいません。